

服用に際して、必ずこの説明文書をお読みください。
また、必要な時に読めるよう大切に保管してください。

解熱鎮痛薬

つらい生理痛・頭痛・発熱に **カイテキIP錠プレミアム** 〈錠剤〉

- ◆イブプロフェンとアセトアミノフェンがつらい頭痛・生理痛などの痛みや発熱にすぐれた効き目を発揮します。
- ◆解熱鎮痛効果を高める無水カフェインとアリルインプロピルアセチル尿素、胃の負担を和らげるメタケイ酸アルミン酸マグネシウムを配合しました。

 使用上の注意

 **してはいけないこと**

(守らないと現在の症状が悪化したり、副作用・事故が起こりやすくなります。)

1. 次の人には服用しないでください。
 - (1)本剤又は本剤の成分によりアレルギー症状を起こしたことがある人
 - (2)本剤又は他の解熱鎮痛薬、かぜ薬を服用してぜんそくを起こしたことがある人
 - (3)15才未満の小児
 - (4)出産予定日12週以内の妊婦
2. 本剤を服用している間は、次のいずれの医薬品も服用しないでください。
他の解熱鎮痛薬、かぜ薬、鎮静薬、乗物酔い薬
3. 服用後、乗物又は機械類の運転操作をしないでください。
(眠気等があらわれることがあります。)
4. 服用前後は飲酒しないでください。
5. 長期連用しないでください。


相談すること

1. 次の人には服用前に医師、歯科医師、薬剤師又は登録販売者に相談してください。
 - (1)医師又は歯科医師の治療を受けている人
 - (2)妊婦又は妊娠していると思われる人
 - (3)授乳中の人
 - (4)高齢者
 - (5)薬などによりアレルギー症状を起こしたことがある人
 - (6)次の診断を受けた人 心臓病、腎臓病、肝臓病、胃・十二指腸潰瘍、全身性エリテマトーデス、混合性結合組織病
 - (7)次の病気にかかったことのある人 胃・十二指腸潰瘍、潰瘍性大腸炎、クローン病
2. 服用後、次の症状があらわれた場合は副作用の可能性がありますので、直ちに服用を中止し、この説明文書を持って医師、歯科医師、薬剤師又は登録販売者に相談してください。

関係部位	症 状
皮 膚	発疹・発赤、かゆみ、青あざができる
消 化 器	吐き気・嘔吐、食欲不振、胃部不快感、胃痛、口内炎、胸やけ、胃もたれ、胃腸出血、腹痛、下痢、血便
精神神経系	めまい
循 環 器	動悸
呼 吸 器	息切れ
そ の 他	目のかすみ、耳なり、むくみ、鼻血、歯ぐきの出血、出血が止まりにくい、出血、背中痛み、過度の体温低下、からだがだるい

まれに下記の重篤な症状が起こることがあります。その場合は直ちに医師の診療を受けてください。

症状の名称	症 状
ショック (アナフィラキシー)	服用後すぐに、皮膚のかゆみ、じんましん、声のかすれ、くしゃみ、のどのかゆみ、息苦しさ、動悸、意識の混濁等があらわれる。
皮膚粘膜眼症候群 (ステvens-ジョンソン症候群)、 中毒性表皮壊死融解症、 急性汎発性発疹性膿疱症	高熱、目の充血、目やに、唇のただれ、のどの痛み、皮膚の広範囲の発疹・発赤、赤くなった皮膚上に小さなブツツ(小膿疱)が出る、全身がだるい、食欲がない等が持続したり、急激に悪化する。
薬剤性過敏症症候群	皮膚が広い範囲で赤くなる、全身性の発疹、発熱、体がだるい、リンパ節(首、わきの下、股の付け根等)のはれ等があらわれる。
肝機能障害	発熱、かゆみ、発疹、黄疸(皮膚や白目が黄色くなる)、褐色尿、全身のだるさ、食欲不振等があらわれる。
腎障害	発熱、発疹、尿量の減少、全身のむくみ、全身のだるさ、関節痛(節々が痛む)、下痢等があらわれる。

裏面もお読みください。

症状の名称	症 状
無菌性髄膜炎	首すじのつっぱりを伴った激しい頭痛、発熱、吐き気・嘔吐等があらわれる。(このような症状は、特に全身性エリテマトーデス又は混合性結合組織病の治療を受けている人で多く報告されている。)
間質性肺炎	階段を上ったり、少し無理をしたりすると息切れがする・息苦しくなる、空せき、発熱等がみられ、これらが急にあらわれたり、持続したりする。
ぜんそく	息をするときゼーゼー、ヒューヒューと鳴る、息苦しい等があらわれる。
再生不良性貧血	青あざ、鼻血、歯ぐきの出血、発熱、皮膚や粘膜が青白くみえる、疲労感、動悸、息切れ、気分が悪くなりくらくとする、血尿等があらわれる。
無顆粒球症	突然の高熱、さむけ、のどの痛み等があらわれる。

- 服用後、次の症状があらわれることがありますので、このような症状の持続又は増強が見られた場合には、服用を中止し、この説明文書を持って医師、薬剤師又は登録販売者に相談してください。
便秘、眠気
- 5～6回服用しても症状がよくなる場合は服用を中止し、この説明文書を持って医師、歯科医師、薬剤師又は登録販売者に相談してください。

効能・効果

- 頭痛・歯痛・抜歯後の疼痛・咽喉痛(のどの痛み)・耳痛・関節痛・神経痛・腰痛・筋肉痛・肩こり痛・打撲痛・骨折痛・ねんざにともなう痛み(ねんざ痛)・月経痛(生理痛)・外傷痛の鎮痛
- 悪寒(発熱によるさむけ)・発熱時の解熱

用法・用量

次の1回量を1日3回を限度とし、なるべく空腹時をさせて水またはぬるま湯で服用してください。

年 齢	1回量	1日服用回数
成人(15才以上)	2錠	3回まで 服用間隔は4時間以上おくこと
15才未満		服用しないこと

(用法・用量に関連する注意)

(1)定められた用法・用量を厳守してください。

(2)錠剤の取り出し方

右図のように錠剤の入っているPTPシートの凸部を指先で強く押して裏面のアルミ箔を破り、取り出してお飲みください。

(誤ってそのまま飲み込んだりすると食道粘膜に突き刺さる等思わぬ事故につながります。)



成分・分量

1日量(6錠)中

成 分	分 量	はたらき
イブプロフェン	450mg	痛みを抑え、熱を下げます。
アセトアミノフェン	195mg	
無水カフェイン	240mg	鎮痛作用を助けます。
ア릴イソプロピルアセチル尿素	180mg	痛みの不快感を和らげます。
メタケイ酸アルミン酸マグネシウム	300mg	胃の負担を和らげます。

添加物：ステアリン酸Ca、乳糖水和物、ヒドロキシプロピルセルロース、ポリビニルアルコール・アクリル酸・メタクリル酸メチル共重合体、クロスCMC-Na、ポリビニルアルコール(部分けん化物)、マクロゴール、リン酸水素Ca、酸化チタン、三酸化鉄 含有

保管及び取扱い上の注意

- 直射日光の当たらない湿気の少ない涼しい所に保管してください。
- 小児の手の届かない所に保管してください。
- 他の容器に入れ替えないでください。(誤用の原因になったり品質が変わります。)
- 使用期限を過ぎた製品は服用しないでください。

お問い合わせ先 株式会社 富士薬品 (学術室)
電話 048-648-1118 9:00~17:30 (土、日、祝日を除く)

製造販売元 **株式会社 富士薬品**
埼玉県さいたま市大宮区桜木町4丁目383番地